



秋季学校事務研究会おつかれさまでした

こんにちは 全事研福井大会研究部です。

秋季学校事務研究会から2か月が経ちました。今回は秋季研特集です。今一度、秋季研の分科会を振り返っていただき、忙しい年末を元気に乗り切っていただきたいと思います。

実践紹介の各班の「発表の要点」と「支部との意見交流/Google フォームに寄せられた意見」の一部を紹介します。 ※Google フォームに寄せられた御意見はそのまま掲載させていただいています。

研究部の研究活動について

詳しい活動内容については、12/2 発行の「JID」第4号をご覧ください。

福井大会のテーマ「リーダーシップと組織開発」について、そもそも何故福井県がこのテーマを研究するのか、「リーダーシップ」や「組織開発」とは一体何か、全国大会研究部の研究の経過と取組の現状について対話形式で説明しました。

第1班 教育活動を知り学習環境整備につなげる

体育と理科の年間指導計画をもとに、単元ごとに必要な備品を一覧にした表を授業者に記入してもらい、教員と連携しながら学習環境の充実を図る取組を行いました。膨大すぎる情報の処理にかかる時間と労力への対処法等いろいろな問題が発生しましたが、周囲に相談し、連携して進めることで道が開けることを実感しました。

【支部との意見交換より】

「授業を見に行っているか」という質問に対して、「日々の職務が多忙」、「職員室を空けることができない」等の理由から、大多数が「No」の回答でした。助言者の岡村さんからは、「生きた予算執行のためには事務職員も積極的に教育活動を知ることが大事。目的を伝え理解を得た上で、学校に支障のないタイミングで行動してみしてほしい」との御助言をいただきました。

【Google フォームに寄せられたご意見】

- ・授業を見て、購入した備品の使い道を確認するのは、若い方たちにぜひオススメしたいです。
- ・備品の管理は非常に大変なので、先生方に協力をお願いして、取り組んでいるのは参考になりました。
- ・不安や、初任者だからという気持ちが少しありますが、声を出していいんだと勇気をもらいました。
- ・実際の授業を参観することの必要性を管理職から示されたことは素晴らしいと思いました。
- ・スタートから教員と関わりながら進めるということが大事だということが印象に残りました。

第2班 学校と地域の信頼関係づくり

教育活動に必要な情報の集約方法が確立されていない現状を受けて、教職員間で情報共有できる「活動計画書」を作成しました。これにより、地域資源の有効活用や教職員間の連携強化、情報共有による業務改善を目指します。

【支部との意見交換より】

小浜支部では校外学習計画書、ゲストティーチャーを依頼する際の計画書の様式を統一しています。年度当初は以前の様式で提出する先生がいたり、記入方法について何度も質問したりする先生がいましたが、繰り返し声掛けを行ったり、職員会議で資料を提示したりすることで、半年経過した現在、統一様式の使用が浸透してきています。

【Google フォームに寄せられたご意見】

- ・すべてにおいて職員とのコミュニケーションがベースにあるなと感じました。
- ・活動要項はありますが、細かい内容（ボランティアを呼ぶかどうか、予算）は記載されていない場合が多いので、実践のような様式を使って保存するのはいいと思います。
- ・実際のところ、「計画書」は、従来ある「実施要項」的なものを統一様式にまとめなおすという作業になるかと思います。考えられる効果として、その作業を通してもう一度目的を見つめ直すということ、改善策を考えることにもつながるのではないかと思います。
- ・終わった後に反省点など書き込める場所があると、次回に活かせるので、さらに良くなるのではと思いました。

第3班 財務分野における業務改善

「行事経費の見える化ファイル」を作成して業務改善をする取組です。行事に関わる職員とともに、学校行事にかかる経費の情報を1つにまとめ、必要な物品や支出会計がすぐに分かるファイルを作ることで、物品や経費についての情報の整理やスムーズで効果的な行事運営を目指します。

【支部との意見交換より】

- ・私の学校では印刷コスト削減のための取組を実施しました。先生たちの負担になるのではという不安もありましたが、メリットが見える化することや、カラー印刷費用が実際にいくら発生しているかという具体的な金額を示すことでコスト削減につながりました。（福井支部）
- ・私の学校では行事会計の見える化をしています。1年間の行事がA3に収まるようにして見えやすくする工夫をしています。（吉田支部）

【Google フォームに寄せられたご意見】

- ・共同実施で取り組めたのがいいですね。個々の得意分野が活かされて、さらにいいものが出来たと思います。
- ・共同実施で取り組むことによって、同じ市町内で支出先をあわせていく、公費増額の要求に繋がるなどができるといいですね。
- ・「行事経費の見える化」はいわゆる「財務マネジメント」だとするなら、事務職員が中心の取組となりやすいです。しかし、教員が財務の部分にどこまで関心をもって連携がとれるかが課題でしょうか。つまり、「財務は事務職員任せ」となってしまって終わり、とならないような一工夫が必要です。
- ・これが単なる前例踏襲の資料とならないための取組も必要かと思います。また評価が必要になってくると思います。

そのほか Google フォームに寄せられたご意見やご感想

- ・2班と3班の内容が合わせられるといいなと思いました。
- ・働き方改革や先生方の負担をどうやったら減らせるかという課題があるが、本研修から、やはり事務職員だけの独りよがりになってはダメだと再認識しました。目線を広く、コミュニケーションをとっていきましょうと思います。
- ・これまで、効果的なのはとにかく一緒に巻き込んでやる事一択だと思っていましたが、働き方改革や専門性を考える中で、専門性を認められると、見る目も聞く耳も変わるということが分かってきました（仕事をこちらに丸投げされるのではなく、ちゃんと指示に従って請負ってくれる）。それが専門、と胸を張って言えるほどの知識技能をもっと磨いていかなければと思うこのごろです。
- ・数年をかけることができる研究であるなら、仮説が実証されたかどうか分かるデータがあるとさらに良いと思います。（例えば実践校の学校評価の数字や教職員の感想など）
- ・今回の研究部の提案は、事務職員が学校運営や教育活動により積極的にしかかわることへの「覚悟」について具体的に考えることのできる良い契機になったと思います。日々追われる事務処理から視点を大きく変えて、仕事に臨むことへの「覚悟」を一人一人が持たなければいけないと改めて感じました。
- ・研究の目指すゴールにどんな子どもたちの幸せがあるのか（教育的要素を実現することの証明）を明確な言葉で描けているともっと説得力が出る気がします。

これらのほかに、Zoom で参加の理事の方の音声聞き取れないといったお声を多数いただきました。ご不便をおかけしましたこととお詫び申し上げます。

Google フォームでたくさんのご意見をお寄せいただきまして本当にありがとうございました。みなさんの前向きな気持ちや行動が、子どもたちの笑顔につながります。「つかさどる事務職員」として、子どもたちのために気持ちを新たに日々の仕事に励みましょう！

